２０１２／０３／２５　　礼拝メッセージ　　近藤修司　牧師

主　　題：争うのを止めなさい
聖書箇所：ローマ人への手紙　１４章１－１２節

１４章１節にパウロはこのように記しています。**「あなたがたは信仰の弱い人を受け入れなさい。その意見をさばいてはいけません。」**と。このことばはローマの教会が抱えていた問題点を表わしています。この教会の中には争いがありました。悲しいことに、兄弟姉妹たちが互いにさばき合っていたのです。**「その意見をさばいてはいけません。」**とありますが、「意見」とは「考え、人間の思い」という意味をもったことばから「個人的な意見」となります。このことは今日繰り返して学んで行きますが、「個人的な意見をさばいてはいけない」ということです。「さばく」というのも「言い争う、論争する」という意味をもったことばです。教会の中にあって、彼らはそれぞれに異なった意見をもっていたのです。当然のことです。それを互いに認め合っていくのがあるべき姿なのに、残念ながら、この教会では意見が異なることによって、互いに非難し合っていた、言い争っていたのです。そのような問題があったのです。パウロが教えたかったことは、そのようなことが教会には決してあってはならないということです。主によって贖われた者たちが集まっている教会にあって、そのような争いがあってはならないと、そのことをパウロは、実は、１４－１５章で教え続けます。パウロは非常に長い箇所をこのテーマに絞って教え続けるのです。というのは、パウロは分裂の恐ろしさを知っているし、同時に、一致することの大切さを知っていたからです。分裂がもたらす大きな悪い影響を、そして、一致がもたらすすばらしい影響をパウロはよく知っていました。そこで、彼は時間を割いて、この大切な教えを教え続けるのです。

分裂の恐ろしさ、悲しいことに、このローマの教会だけでなく、多くの教会がそれを経験しています。ピリピの教会においても、コリントの教会においてもそうでした。時代が変わっても、場所が変わっても、この問題は私たちが地上にいる限り、必ず、経験するものです。どうしても、人が集まると、たとえ救われていても、あの人が好きだ、この人が嫌いだという悲しいことによってグループができてしまいます。私たちが祈らなければいけないこと、いや、牧会者として祈ることは、それぞれの教会が神にあって一つにされていくことです。それぞれの教会にそのような分裂や分派が起こらないこと、主にあって一つにされていくこと、そのことを祈り続けるのです。

◎分裂は神の栄光を汚すもの

恐らく、皆さんもよくご存じのように、群れがあってその中に分裂があるなら、神の栄光を現わすことなどはあり得ません。そのような分裂分派は栄光を汚すものであり、神の栄光に泥を塗るようなものです。もし、私たちがこの教会という主によって贖われた者たちが集まっている場所にあって、自分の考えを通そうとして、それゆえにいろいろな問題が起こっている、それゆえに争いが起こっているなら、神を知らないこの世界と全く同じことです。なぜなら、分裂分派が世の中に起こるのは、それぞれの意見をそれぞれが認め合わないからです。自分の意見、考えを通そうとして、互いに他の意見を受け入れようとしないなら、そこには争いが生じます。それが表面的でなくても心の中にそのような問題が生じて行くのです。ご存じですか？みことばを見るなら、そのような争いや分裂は救われていない人たちの特徴として描かれています。

パウロが「御霊の実」を教えたときに、ガラテヤ５章ですが**「肉の行ないは明白であって、次のようなものです。」**（５：１９）とそのリストが挙げられています。そのリストを見ると**「不品行、汚れ、好色、:20 偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派、:21 ねたみ、酩酊、遊興、」**と続きます。肉の行ないはこのようなものだと言うのです。救われていても悲しいことに、私たちは罪の性質をもっているゆえに、このような誘惑の中を生きているのです。ユダは１９節で終わりの日に現われるあざける者たちのことについて、このように述べています。終わりの日に現われる、神を知らず神を信じていない、そして、神に逆らう者たちの姿です。**「この人たちは、御霊を持たず、分裂を起こし、生まれつきのままの人間です。」**と非常に厳しいことが記されています。彼らの特徴は分裂を起こす、集まりの中に分裂を起こしていくと言います。主はどれ程そのことを憎んでおられるのか？私たちの集まりの中に、そのような分裂を起こすようなことがあってはならないし、そのような人になってはならないと。それは主の栄光を現わすものではなく、主の栄光を汚すものです。

◎パウロの教え：熱心に一致を保ちなさい；受け入れられない人のために祈る

一致の大切さを知っていたパウロは、このようなことを私たちに教えてくれます。エペソ４：３で**「平和のきずなで結ばれて御霊の一致を熱心に保ちなさい。」**と。この**「熱心に保ちなさい。」**というのは「あらゆる限りの努力を尽くして一致を保ちなさい。」ということです。なぜなら、一致を保つことは非常に難

しいことだから、そのためにあらゆる限りの努力をしなさいとパウロは教えているのです。私たちもそのことを経験しています。残念ながら、先に言ったように、人が集まるとそこに好きな人とそうでない人とが存在するのです。だから、私たちはパウロが言うように、熱心に一致を保つ努力をしなければいけません。パウロはそのことをローマ書の中で教えています。私たちはどのように人々と接していくのか？その人が敵であったとしても、私たちはその人をどのように正しく受け入れていくのか？みことばが教えているのは、その人たちのために祈るということでした。みことばが私たちに教え続けることは、あの人が変われば、この人が変わればではなくて、どのようなときでも私たちたちの祈りは「神様、私を変えていってください」です。まだ、私たちは不完全なところにいるのです。発展途上なのです。成長の過程にいるのです。私たちにとって必要なことは、主のみことばを謙虚に受け入れようとする柔軟な砕かれた態度です。みことばを聞き、みことばによって自らが変えられ、益々主に喜ばれる者へと成長して行く、そのような思いが私たちには与えられています。パウロが言うように、「あなたの責任はあらゆる努力をして一致を保ちなさい。」です。

◎主の教え：それによって周りに証する

その一致の大切さについて、主ご自身がこのように教えておられます。ヨハネの福音書です。１３：３４－３５**「あなたがたに新しい戒めを与えましょう。あなたがたは互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、そのように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。:35 もしあなたがたの互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」**、もし、私たちが主にあって一致しているなら、言い方を変えるなら、主によって救われた者たちが主の愛を実践し合っているなら、主の愛をもって互いに愛し合っているなら、主が教えてくださったように、私たちの周りにいる主を知らない者たちが、この主を知ることになると言うのです。

もちろん、私たちはことばをもってイエスのすばらしい福音を語ろうとします。しかし、まだイエスを知らない人が私たちの集まりに来た場合、いったい、どのようなことを彼らが見るのか？です。キリストの愛なのか、それとも、争いなのか？そして、私たちが思っている以上に、彼らの目は鋭いです。彼らは私たちの信仰が本物かどうかを見抜きます。キリストの愛が本当に私たちを生まれ変わらせる力をもっているのかどうか、そのことを彼らは見抜きます。私たちが神によって愛されている者として、その愛を実践しているのかどうか、彼らは見抜きます。主が私たちに教えてくださったこと、「もし、あなたのうちにわたしの愛があるなら、世の中の人たちはわたしを見る。」と。だから、私たちは成長することが必要です。キリストによって愛された者として、その愛をもって互いに愛し合っていくことの必要性を教えられるのです。

もう一箇所見てください。同じヨハネの福音書１７章に「主の祈り」が記されています。２０－２１節を見ると、驚くべきことが記されています。**「わたしは、ただこの人々のためだけでなく、…」**と、これはイエスがおられたその当時の人たちのことです。彼らだけでなく**「彼らのことばによってわたしを信じる人々のためにもお願いします。」**と、つまり、弟子たちの福音のことばを通して、多くの人たちがその後に信じました。語ることばと記されたことばをもって…。今、私たちはその記されたことばを持っているのです。聖書のことばです。主イエス・キリストが今から約二千年前に父なる神の前に祈られた祈りを見るなら、それはこういうものです。「今、わたしといる者たちのためにも祈るし、これから後に救われる者たちのためにも祈る」と。驚くべきことは皆さん、主は私たちのために二千年前から祈ってくださっているというのです。

何を祈っておられるのでしょう？**「:21 それは、父よ、あなたがわたしにおられ、わたしがあなたにいるように、彼らがみな一つとなるためです。また、彼らもわたしたちにおるようになるためです。そのことによって、あなたがわたしを遣わされたことを、世が信じるためなのです。」**とあります。主が祈られたことは「私たちが一つになること」です。なぜ、これが大切なのか？**「そのことによって、あなたがわたしを遣わされたことを、世が信じるためなのです。」**と、私たちが一つになることによって、世の中の人たちは私たちが信じる主イエス・キリストがいったいだれなのかを知ることになると言うのです。

私たちはそのために生きています。主イエスのことを一人でも多くの人たちに知ってもらいたいし、主イエスを信じて救いに与ってもらいたい、そのために私たちは生きているのです。主ご自身が私たちに教えることは、そのためにあなたがたは一つになりなさい、それがわたしの祈りだということです。２２－２３節を見る**「またわたしは、あなたがわたしに下さった栄光を、彼らに与えました。それは、わたしたちが一つであるように、彼らも一つであるためです。:23 わたしは彼らにおり、あなたはわたしにおられます。それは、彼らが全うされて一つとなるためです。それは、あなたがわたしを遣わされたことと、あなたがわたしを愛されたように彼らをも愛されたこととを、この世が知るためです。」**と、主は私たちにこのようなすばらしいことを教えてくださったのです。私たちが一つになることによって、私たちを救い、私たちを変え続けてくださっているこの真の神のことが、世に明らかにされていく、だから、ひとつになることが必要だ

と言うのです。だから、サタンは必死になって、私たちの間に様々な分裂をもたらそうとするのです。お分かりですね？なぜなら、私たちが一つになるならキリストの栄光が現わされるから、彼は何としても阻止しようとするのです。それで私たち一人ひとりのうちに働くのです。

三位一体の神のことがこの１７章に記されています。父、子、聖霊なる神です。唯一真の神です。その三位一体の神においては一致に関する問題は存在しません。問題は私たちです。一致しなさいとイエスは教え祈られました。それは形だけの、また、見せ掛けだけの一致でないことは明らかです。私たちが見せ掛けで愛しているとしても、もし、心に怒りをもっているなら、もし、だれかを赦していないなら、悲しいことに、主はあなたが偽りだということを見抜いておられます。そのような歩みに祝福などありません。私たちの人生は私たちの心を見ておられる主に対するものです。人の目を意識する人生はもう終わったのです。生まれ変わった私たちは、私たちの心を見ておられる主に対して生きるのです。なぜなら、このパウロがローマ書の中で教えるように、その主の前に私たちが立つからです。あなたをさばかれるのはこの主です。あなたのことを正確に正しく知っておられるお方があなたをさばくのです。だから、その方の目を恐れて私たちは生きていくことです。

◎本当の一致：神への愛において

私たちが一致ということを考えるときに、その一致は主への愛から生まれて来ます。主なる神に対する愛から一致は生まれて来るのです。どれ程一致を保とうとしても、心が伴っていなければそれは形だけの一致で、本当の一致は生まれて来ません。私たちが神を愛するゆえに、その愛が人々の周りに広がってゆくことによって、神が望んでおられる一致が生まれて来ます。皆さん、そのことはずっと、みことばがいろいろな箇所を通して私たちに教えてくれていませんか？みことばが私たちに教えることは、神の愛を受け入れた者として、神を愛し、その愛が人々への愛へと広がってゆくということです。愛さなければいけないのではありません。愛したいからです。主が条件なしに私たちを一方的に愛してくださったように、そのような愛をもって愛する者へと私たちが変わっていくのです。これはどこから始まるのですか？神の恵みを覚えることです。そのことを私たちはローマ人への手紙の中で、主から教えられているのです。主の恵みによって救われた者は感謝を現わすが、どのように現わすのか？主は具体的な例を私たちに教えてくれました。１４章に入ってパウロが私たちに教えることは、私たちが一つになることです。心からこのキリストの愛をもって互いに愛し合っていくようにと。

◎本当の一致：聖さにおいて

同時に、もう一つ付け加えるなら、それは聖さにおける一致です。神が喜んでくださるためには、私たち一人ひとりが聖くなければいけないと。実は、そのことはヨハネ１７章の１４－１７節に、主が弟子たちのために祈っておられるところに記されています。**「:14 わたしは彼らにあなたのみことばを与えました。しかし、世は彼らを憎みました。わたしがこの世のものでないように、彼らもこの世のものでないからです。:15 彼らをこの世から取り去ってくださるようにというのではなく、悪い者から守ってくださるようにお願いします。:16 わたしがこの世のものでないように、彼らもこの世のものではありません。:17 真理によって彼らを聖め別ってください。あなたのみことばは真理です。」**

彼らが聖くなることを主が祈っておられます。聖くなることによって主の栄光が現わされていくからです。ですから、主が望んでおられる一致とは、見せ掛けだけの形だけの一致ではありません。心からのものです。その一致は心から主を愛することによって生まれて来るものです。心から主を愛する者たちは、主に喜んでいただきたいから主が憎まれる罪から離れていこうとします。そうして私たちは一つになるのです。だから、教会にあって罪は正しく吟味され、正しくさばかれなければなりません。そのようにして一人ひとりが主に喜ばれる者として一つにされていく、そのことをみことばは私たちに教えているのです。

◎一致が大切であることの四つの理由

さて、このパウロが私たちにローマ書１４章のメッセージを与えるのです。分裂の恐ろしさを知っていたパウロ、一致の大切さを知っていたパウロが、この１４章から大切なことを教えるのです。もう一度、そのみことばに戻ってください。パウロは争わずに群れが一致することの大切さを、四つの理由を挙げて説明しています。

１．主が受け入れてくださったから　　１－３節

１）争いの実態

１節**「あなたがたは信仰の弱い人を受け入れなさい。その意見をさばいてはいけません。」**、最初に話したように、ローマ教会の争いは信仰の強い者たち、また、１５：１を見ると**「私たち力のある者は、力のない人たちの弱さをになうべきです。自分を喜ばせるべきではありません。」**とあって、**「力のある者」**と言われています。同じ人たちです。信仰の強い人たち、力ある人たちと、信仰の弱い人たち、力のない人たち、この二つのグループにおける争いだったのです。彼らは互いに相手を非難しさばき合っていたのです。３

節には**「食べる人は食べない人を侮ってはいけないし、食べない人も食べる人をさばいてはいけません。」**とあり、１３節にも**「ですから、私たちは、もはや互いにさばき合うことのないようにしましょう。」**とあります。ですから、このような争いの実態があったのです。

２）争いの原因

では、なぜ、彼らは争っていたのでしょう？その原因についてもパウロは教えています。初めに見たように「信仰の強い人」と「信仰の弱い人」、この二つのグループの間に問題があったのです。

（１）ことばの意味

１節にある**「信仰の弱い人」**とはいったいどのような人でしょう？これは「信仰がない人」のことではありません。信仰の強い人も弱い人もすべてクリスチャンたちです。みな救われているのです。もちろん、信仰生活の長さのことをパウロが言っているのではありません。まず、このことばの意味を見ましょう。「信仰」とは「信じる」と訳すことが出来ることばです。同時に、「信頼」とも訳せます。ある聖書学者たちは、このことばには「保証、確信、信念」などの意味が含まれているとも言います。

（２）他の箇所

実際に、このことばが用いられている箇所があります。ローマ人への手紙４章１９節にアブラハムのことが記されています。**「アブラハムは、およそ百歳になって、自分のからだが死んだも同然であることと、サラの胎の死んでいることとを認めても、その信仰は弱りませんでした。」**、ここに**「信仰は弱りませんでした。」**とあります。もちろん、これは否定形が使われていますが、信仰が弱るということです。ローマ１４：１では**「信仰の弱い」**とありました。同じことばが使われていますが、４：１９で言われているのは明らかに「信仰がなくなる」ということではありません。アブラハムの**「その信仰は弱りませんでした。」**ということは「彼は確信を失わなかった」ということです。アブラハムは確かに、自分たちの肉体は衰えてしまって、人間的には子どもを産むような年齢ではないけれども、神が約束されたのだから、必ず、その約束通りになるという確信を失わなかったのです。そのことが１９節で言われているのです。神の約束は必ず成就する、それがここで言われていることです。

◎信仰の弱い人たち／力のない人

＝　これまで守って来た様々な教えから完全に自由にされていないキリスト者たち

そこで、１４章に戻って、**「信仰の弱い」**というのは「信仰歴が浅くて」ということではなく「確信に欠ける信仰者」のことです。「確信に欠けている」とはどういう意味か説明します。「信仰の弱い人たち」、「力のない人たち」と言われているこの意味ですが、彼らはクリスチャンです。イエス・キリストを信じることによってすべてのことが自由だと彼らは聞かされ教えられました。そのことはよく分かっているのですが、彼らはこれまで守って来た様々な教えから完全に自由にされていないのです。そのような人たちのことです。自分たちが守って来たこと、実践して来たこと、そのことを本当に捨てていいのかどうか、その確信がまだない、そのような人たちです。なぜ、そのような人たちが存在していたのでしょう？

それはこのローマ教会の構成メンバーを考えると明らかになります。この教会には二つのグループが存在しました。「信仰の強い人、弱い人」というグループではなくて、この教会の殆どの会員は異邦人のクリスチャンたちでした。でも、この教会の中には、数は少数でもユダヤ人のクリスチャンたちがいたのです。異邦人たち、彼らは私たちと同じように異教から回心する訳です。皆さんも思い出していただきたいのですが、私たちは聖書のみことばに触れるまで創造主なる神のことをよく知りませんでした。また、私たちも創造主なる神に逆らい続けて来た罪人だということも知らなかった、そうですね、皆さん。まして、その神があなたの罪を負って十字架で死んでくださったなんて聞いてもいなかった、別世界の話、外国の話、西洋の宗教の話、というようにしか私たちは考えていなかったかもしれません。しかし、私たちはみことばを通して、この方の偉大さ、そして、何と私の罪のためにご自分のいのちを犠牲にして救いを備えてくださった、あの十字架の死は私の身代わりであったと知りました。そして、この方が敢然とその死から肉体をもってよみがえって来た、彼こそが真の神であり、彼こそが真の救い主であるということを聞いた時に、私たちはこの備えられた救いを心から信じてこの救いに与りたいと、そのように願ってこの主を受け入れたのです。そのような異教から救い出された私たちは、このみことばを通して、このみことばが教えるように生きていこうとそのように願って、そのように皆さんは一人ひとり歩んで来ているはずです。

問題はユダヤ人です。彼らはこれまで旧約聖書の教え、その律法を守り行なって来ました。もちろん、彼らは福音を聞くことによって、そして、神が彼らのうちに働くことによって、私たちと同じように、このように律法を守り行なうという、行ないによって救いに与ることは決してないということを主によって悟らされます。そして、イエス・キリストを信じる信仰によってのみ救われるという、その信仰へと導かれて、彼らも私たちと同じようにこの救いに与ったのです。しかし、彼らはこれまで、これが神

の教えだと言って、旧約聖書に確かに記されている様々な律法を教えられ、それを必死になって守って来たのです。そこには儀式律法がありました。そこには食べ物に関する律法がありました。みことばが教えているそのような教えを、イエス・キリストを信じたからといって、すべてそっくり捨てても良いのかどうか、そこに彼らのためらいがあったのです。ここで言われているのはそのような人たちのことです。

私たちはよく私的な解釈をして「私はまだ信仰が浅いから私をさばかないで受け入れてくれる。」というように解釈をするなら、それはみことばが教えていることを自分勝手に解釈しているにすぎないのです。ここで言われている信仰の弱い人とは、そのような人のことではありません。特に、このユダヤ教徒たちの中で信仰に与った者たちは、そのようなかつての教えを完全に捨て去ることがすぐには出来なかったのです。その証拠は、使徒の働き１５章を見るとよく分かります。ここにはエルサレムにおける会議のことが記されています。初めから読んでゆくと、人々の間にいろいろと考えなければならない問題がありました。救いに関して、特に、異邦人に関することです。そこで彼らはエルサレムに集まって来るのですが、５節を見てください。**「しかし、パリサイ派の者で信者になった人々が立ち上がり、「異邦人にも割礼を受けさせ、また、モーセの律法を守ることを命じるべきである。」と言った。」**と書かれています。やはり、こういう人がいたのです。なぜなら、これが彼らの人生だったからです。彼らはこうして生きて来たのです。これが神の教えであり、これが神に喜ばれることだと教えられて来たのです。私たちのように異教から生まれ変わった回心した者ではなかったのです。彼らはこのように聖書の教えに基づいて教えられて来たのです。もちろん、彼らは正しくみことばを理解していなかったということがあります。ですから、現実に異邦人が救われるというすばらしい知らせを聞いても、「このような律法を守るように彼らに教えなければいけないのではないか。」という考え方が起こったのです。

もう一つのことを説明します。使徒の働き１０章に記されていることですが、カイザリヤという所にコルネリオという人物がいました。イタリア隊という部隊の百人隊長でした。彼は非常に敬虔な人物で、彼もまた彼の家族も神を恐れていたとみことばが教えます。彼が祈っていると御使いが彼に現われて、今ヨッパに人をやってシモンという人を招くようにと教えます。このシモン、彼の名前はペテロと呼ばれていると御使いは告げました。この人は皮なめしのシモンという人の家に泊まっていて、その家は海辺にあると告げました。そこで、コルネリオはすぐにそこに自らの部下と敬虔な兵士を遣わすのです。そのことがあった翌日、ペテロは食事の用意がされている間に夢ごこちになった時がありました。１１－１３節**「見ると、天が開けており、大きな敷布のような入れ物が、四隅をつるされて地上に降りて来た。:12 その中には、地上のあらゆる種類の四つ足の動物や、はうもの、また、空の鳥などがいた。:13 そして、彼に、「ペテロ。さあ、ほふって食べなさい。」という声が聞こえた。」**、覚えておられますね。ペテロはどのように答えましたか？布の中にはあらゆる動物がいたのです。そして、このように告げられたのです。**「ペテロ。さあ、ほふって食べなさい。」**と。ペテロは「神様、感謝です。いただきます。」と言ったか？１４節**「主よ。それはできません。私はまだ一度も、きよくない物や汚れた物を食べたことがありません。」**、皆さんにお聞きしますが、このときペテロはクリスチャンだったのでしょうか？クリスチャンではなかったのでしょうか？クリスチャンです、救われていたのです。でも、まだこのように、かつての教えられて来た律法が内にあったのです。ペテロが弱い人であったかどうかということを言っているのではありません。今話しているのは、このようにユダヤ教徒から信仰へと至った者たちは、私たち異邦人たちとは少し違っていたのです。

<u>ユダヤ教徒が捕らわれていた教え</u>

ですから、このローマ書１４章で、この弱い人たちが捕らわれていた三つの教えをパウロは挙げているのです。ユダヤ教徒から改宗した人たち、この救いに与った者たちが拘っていた三つの教えです。

（１）食べ物に関すること　　２－３節

２－３節を見てください。**「何でも食べてよいと信じている人もいますが、弱い人は野菜よりほかには食べません。:3 食べる人は食べない人を侮ってはいけないし、食べない人も食べる人をさばいてはいけません。…」神がその人を受け入れてくださったからです。」**、６節にも**「食べる人は、主のために食べています。」**とあります。１５節にも**「もし、食べ物のことで、あなたの兄弟が心を痛めているのなら、」**、１７節**「神の国は飲み食いのことではなく、」**、また、２０－２１節にも**「食べ物のことで神のみわざを破壊してはいけません。すべての物はきよいのです。しかし、それを食べて人につまずきを与えるような人のばあいは、悪いのです。:21 肉を食べず、ぶどう酒を飲まず、そのほか兄弟のつまずきになることをしないのは良いことなのです。」**とあります。ですから、このように見て分かることは彼らが拘っていたのは「食べ物に関すること」です。

（２）特別な日に関すること　　５－６節

同時に、５－６節を見ると、特別な日に関することがあります。というのは、ユダヤ人たちは特別な日の遵守をしていたからです。**「ある日を、他の日に比べて、大事だと考える人もいますが、どの日も同じだと**

考える人もいます。それぞれ自分の心の中で確信を持ちなさい。:6 日を守る人は、主のために守っています。…」とあり、彼らはこのように特別な日に関して、それにも拘っていたのです。

（３）飲み物に関して　　１７－２１節

　１７節、２１節に「飲み食い」のこと、「ぶどう酒を飲む」ことが書かれています。
私たちには余り想像できませんが、ユダヤ人にとって、キリストにあって自由にされるということは頭で分かっていても、なかなかそれを飲み込むことが出来なかったのです。その教え受け入れることは彼らにとっては非常に難しかったのです。というのは、確かに、食べ物に関してはレビ記１１章や申命記１４章に、何を食べて良いのか悪いのかということが詳しく記されているからです。特別な日に関しても、コロサイ人への手紙２章１６節のみことばを引用するなら、**「こういうわけですから、食べ物と飲み物について、あるいは、祭りや新月や安息日のことについて、だれにもあなたがたを批評させてはなりません。」**とあって、彼らには拘りがあったのです。

　というのは、彼らは祭りを守っていました。毎年祝った恒例の祭りです。過越の祭り、七週の祭り、仮庵の祭りなどがありました。彼らはそれを今でも守っています。また、新月の祭りは毎月祝う祭りです。民数記２８章に出て来ます。そして、安息日は彼らは聖なる日として毎週それを守りました。神の安息、また、奴隷からの解放を記念してその日を彼らは守ったのです。ですから、イエスを信じて、何を食べても良い、どの日も同じだと聞いても、彼らにしてみると、そのことを受け入れるのは非常に困難でした。本当にそのようにして良いのか、その確信において欠けていたのです。それが、パウロがここで言っている「信仰の弱い」人たちのことです。

◎信仰の強い人たち／力のある人　＝　キリストにある自由を感謝しているキリスト者たち

　「信仰の強い人」は全くそれと逆です。彼らはキリストのある自由を感謝して生きていた者たちです。

- **食べ物に関して**：彼らはすべての物を感謝していただいていました。
- **特別な日に関して**：すべての日を同じように感謝して過ごしています。
- **飲み物に関して**：彼らは主に感謝して飲んでいました。

　１４：３を見てください。**「食べる人は食べない人を侮ってはいけないし、食べない人も食べる人をさばいてはいけません。神がその人を受け入れてくださったからです。」**

- **「食べる人は食べない人を」**：「食べる人」とは肉を食べる人のことです。つまり、強い人です。「何を食べても良い、神様に感謝していただけば良い」と信じて、キリストにある自由を楽しんでいた者たちです。彼らは食べる人で肉を食べたのです。肉を食べる人の肉を食べない人への態度を言っているのです。ですから、強い人が弱い人を侮っていたのです。
- **「食べない人も食べる人を」**：また、肉を食べないで野菜しか食べない人も、肉を食べる人のことをさばいてはいけないと言います。

　ですから、強い人は弱い人に対して正しい態度を取りなさいと言い、後半では、弱い人も強い人に対して、正しい態度を取りなさいということを教えているのです。先程から話しているように、３節を見るなら、強い人が、まだそのようなものに拘っていると弱い人たちを見下していたのです。また、信仰の弱い人たちは強い人たちを見て「これら旧約の教えを軽んじている、ないがしろにしている」と、さばいていたのです。彼らは主の教えに対してこのような態度を取っていると言って彼らのことをさばいていたのです。

３）争いの間違い

　そして最後に、パウロは争いの間違いというものを指摘します。

（１）どちらも神に受け入れられた人たちだから

　３節の後半を見てください。**「神がその人を受け入れてくださったからです。」**と言います。１節にも同じことばがありました。**「信仰の弱い人を受け入れなさい」**とこの**「受け入れなさい」**ということばです。これは、自分の社会や家庭、知人や顔見知りの輪へ招き入れるということ、そのような意味をもったことばです。「仲間とする」という意味があります。１節ではパウロは強い人に対して教えるのです。「弱い人を侮ってはいけない。彼らを軽蔑するのではない。彼らを仲間として受け入れてあげなさい。」と。そして、３節では今度は弱い人に対してこの教えがなされています。**「神がその人を受け入れてくださったからです。」**と。野菜しか食べない人が肉を食べる人たちをさばいているから、「そのようなことをしてはならない。なぜなら、その強い人たちも神が受け入れてくださったのだから」と、パウロはそのように言うのです。彼は両方のグループに対して「神があなたたちを受け入れてくださった。だから、あなたたちは争っていてはいけない。」と言うのです。

（２）さばかれるのは主だから

　もう一つ見ていただきたいのは４節です。**「あなたはいったいだれなので、他人のしもべをさばくのですか。…」**と記されています。これは、信仰の弱い人たちに対する継続した教えです。「信仰の強い人たちをさ

ばいてはいけない、神が受け入れてくださったのだから」と言ったパウロは、**「あなたはいったいだれなので、他人のしもべをさばくのですか。」**と非常に厳しいことを言います。この４節を別の言い方をするなら、「あなたは自分をいったいだれだと思っているのか？」です。いつの間にか自分をさばきつかさの場所に、その地位に置いているのです。パウロは「その地位にふさわしいのは主ご自身だけだ」と言うのです。だから、「さばくのを止めなさい」と言うのです。パウロはこうして、このローマの教会に存在していた争いを知って、そして、兄弟姉妹たちに争いを止めなさいと言うのです。

（３）争いの原因が罪ではなく意見だから

このようなことをパウロが命じたということは、皆さん、これを覚えておいてください。この争いの原因は罪が原因でなかったということです。最初に見たように、**「その意見をさばいてはいけません。」**と言ったパウロ、問題は彼らの異なった考え方や異なった意見だったのです。最初にも話したように、私たちにはいろんな意見、考えがあるのです。それが違うからと言って、争うようなことをしてはいけないというのが、パウロが言いたかったことです。もし、これが罪が原因だったなら、パウロが教えるように、また、みことばが我々に教えるように、その罪を正しくさばくことです。先ほども言ったように、一致を保つのであれば我々は主が喜ばれるように罪を除かないといけません。だから、罪が問題であるなら、当然、それを解決するようにとその罪を責めて、その人たちが悔い改めるようにとパウロは教えたはずです。しかし、そのようには言っていないのです。「受け入れなさい。主が救ってくださったのだから。そして、あなたたちの争いの原因はそれぞれの考え方、意見の違いだ。」と言うのです。

（４）それは神に喜んでいただくためになされているから

もう一つ付け加えるなら、確かに、この信仰の弱い人、主の恵みによって救われていながら、かつてのものを捨てていいのかどうかと確信がない人たち、この人たちも実は肉を食べないこと、野菜しか食べないこと、特別な日を守ろうとしていること、飲み物に関しても、彼らはこれまでの教えを一生懸命守ろうとしている。もちろん、彼らはそれによって救いを得るということが間違いだということが分かっています。でも、彼らはそのようなことを守っていこうとするのです。何のためにですか？主がお喜びになるからと、その確信に基づいて彼らはそのようにやろうとしたのです。だから、責めてはいけないと言うのです。同時に、肉を食べる者たち、特別な日は別になくてすべての日が特別だと思っている人、飲み物に関しても神が喜ばれることをしたいと、そう思ってキリストにある自由を楽しんでいる人たち、彼らも実は、主のためにすべてのことをしていたのです。

皆さん、私たちは教会にあって、例えば「こういうものを食べてはいけない。こういうものを飲んではいけない。」ということを余り言いません。もちろん、聖書の中にははっきりとこういうことをしてはいけないと記されていることがあります。それに関して私たちは「それはしてはいけない」と言います。それはみことばが教えることだからです。でも、みことばがはっきり言っていないことがたくさんあります。例えば、皆さんの中にはいろんな機会にアルコールを口にすることがあるでしょう。強い酒に関しての禁止はあります。でも、皆さんがよくご存じのように、酒に関しては「酔ってはいけない」と書いてあります。私たちが知っていること信じていることは、もし、それが神の栄光を現わすとあなたが確信しているのならやりなさい、その責任はあなたにあるということです。それがキリストにある自由なのです。何をしても良いというのではありません。主が与えてくださった自由とは、私たちが自由を用いて神の栄光を現わそうとすることです。言い方を変えるなら、神が喜んでくださることをしようとするのです。だから、私たちがすることすべてが神が喜んでくださるという確信に基づいているなら「やりなさい」というのです。でも、そうでないなら「止めなさい」と言います。私たちの間にはいろいろな意見の違いが出て来ます。そこに違いがあってもさばき合ってはいけない。主が受け入れてくださったのだから、考え方が違うこと、そのことを認め合っていきなさいということです。

私たち信仰者、まず、皆さん一人ひとり、どうぞ、主に喜ばれることが何かをいつも考えながらそのことを選択してください。主が喜んでくださることを選択するときに、神はあなたを喜んでくださり、あなたを用いてくださるのです。そして、あなたが一致をもたらす働き人として用いられていきます。私たちに必要なものは、そのような思いをもってそのような歩みをしようとして、そのような歩みをしている信仰者たちです。ここにいらっしゃるすべての信仰者が、私は神の栄光を現わすために生きていきたいと、そのように心から願って生きているなら、神が喜び、そして、神のみわざがなされていきます。そのような信仰者であってください。そのような信仰者であり続けてください。主が望んでおられること、主がお喜びになること、それを第一にして、そのような個人として、そのような群れとして変えられていくように。「主よ、どうぞ私を変えていってください。私を用いていってください。私はあなたの栄光を現わすことだけを望んで歩んでいきたい。」と、そのように歩んでいくことです。

一致の大切さ、そのことをパウロは教えてくれます。そして、この後も、彼は繰り返して教えます。今日、皆さんがお帰りになる前に、新たな決心をもって出て行ってください。「一致がどれだけ大切かがわかりました。どうぞ、神様、私の心を清めてください。人に対しての悪い思いがあるならば、人の罪を赦していないならば、神が愛してくださったように人を愛していないならば…」、それは私たちが主の前に告白しなければいけないことです。今一度、心が神の前に正しくされて、そして、出て行くことです。主が喜んでくださることを選択し、主が喜んでくださることを行なう者として、そのようにして歩んでください。そのときに神は私たちの群れの中に、そして、あなたのうちにすばらしいみわざを成してくれます。

《考えましょう》
１．「信仰の弱い人」を説明してください。
２．どうしてこのような信仰者が存在したのでしょう？
３．「信仰の強い人」を説明してください。
４．教会において一致を保ち続けるためにはどうすれば良いと思いますか？